

特集 伏流水が育む天然岩ガキ



写真：元滝伏流水

古今無類の「伏流水」

われわれにとって、母なる鳥海山からの恵みの水は生活に欠かせないものとなっています。雪解け水、表流水、伏流水。他にもさまざまな種類があり、さまざま呼び名もありますが、これらは、市の水道事業に限らず農業やその他産業において、どれも大切な水であることは周知のことでしょう。

中でも伏流水は、人間だけでなく動植物にとっても「命の水」となっていると一言でも過言ではなく、特に貴重な水資源であると思います。

ブナ林の落ち葉や、ほかの動植物の栄養分が、山肌にしみ込む水に豊富なミネラルを与え、何十年もの時を経て地上へ湧き出す伏流水。その美しくも力強いエネルギーは、物が有り余る現代においても、他に役目を果たせるものはありません。

まさに古今無類。

さて、その伏流水が海底から湧き出している話を聞いたことは無いでしょうか。そしてそれが豊かな岩ガキを育てているという…。

広報担当、潜入取材へ

市の最南端に位置する小砂川地区は、鳥海山の稜線が直接日本海に入る独特の地形となっています。海中にも山麓が広がっており、そのためこの周辺海域では、いたる場所で海底や海岸からこんこんと伏流水が湧き出していると聞く。何十年の間、森を駆け巡った「命の水」が海へ…。

今回の岩ガキ特集にあたり、避けては通れない伏流水の実態を知るべく、特別な許可を得て地元漁師に協力を依頼し、舟に乗りこむことにしました。

伏流水の実態

小砂川漁港を出て川袋方面に向かい舟を走らせること5分。「この辺が浅くていいかもしれない」と話すのは小砂川地区の若手漁師・浅倉智さん。浅倉さんは幼少期から海に魅了され、一度は違う道へ進むも、自分の心に嘘はつけず、夢だった漁師の道を選んだ若虎。親も漁師ではなく、自らの意志で漁師となった異端児。

さて、そんな浅倉さんのアドバースを受けいざ水中へ。前日の高いうねりの影響が残り、潮の流れが早く、そして水も澄んではいなかった。が、水中メガネの中から目を凝らし、10分程遊泳してみると水がモヤモヤしている場所を発見した。よく見るといたる場所で水がモヤモヤしている。浅倉さんに理由を訪ねると、「それが伏流水が湧き出ている証です。海水と湧き水の温度差でモヤモヤの現象が起きているんです」と答えてくれた。

砂浜で湧き水を見たことはあったが、まさか本当に海底からも伏流水が湧き出ているとは。水にアルコール類を混ぜた際

に起こる現象と同様と言ったところだが、うまく言葉では表現しにくい。とても神秘的で、自然が織りなす情景が心に染みわたる。もちろん水中でも撮影が可能な機材を用意していたので、撮影を試みるも残念ながらモヤモヤをカメラで捉えることはかなわなかった。

浅倉さんは続けて、「この伏流水のおかげでこの辺の岩ガキはうまいんですよ」と言う。浅倉さんの言葉を要約すると、ミネラルをたっぷり含んだ伏流水は海底に湧き出した際に、プランクトンを豊かにするとか、そしてそのプランクトンは岩ガキにとって絶好の餌となるそう。

だ。全国にファンが多い、このエリアの岩ガキの旨さの理由が少しだけ分かってきた気がしてきた。

さらにはこの伏流水は、プランクトンを育てるだけではないと言っからまた驚かされる。伏流水は海水の温度を適度に下げ、岩ガキの産卵を抑制すると言っのです。にかほ市の岩ガキが、他の地域より遅く旬を迎え、人氣がある理由も「伏流水」にありそうだ。

